

PDCA サイクルによる英文学科生の英語力向上への取り組み [2013 年度]

**背景・目的**

英文学科では、2010 年度より、学習支援のシステムに考慮したプログラム"Peer-Assisted Learning(以下 PAL と記す)"を設置し、学科英語教育に導入した。PAL では、主に卒業生（本大学院生および修了者）が学科独自の基礎英語能力調査試験（Achievement Test）の対策支援にあたる。この学習支援者が、指導法、教材などを教員と相談して決め、現場での状況を報告しながら運営し、学生、学習支援者、教員が連携をとるかたちで実施する。この方式で、2010 年度は主に 1 年生を対象に実施され、また 2011 年度以降は、1 年生に加え、対象を 2 年生に広げ、大きな成果をあげることができた。

本課題では、これまで実施してきた学生個人に対する目の行き届いた教育をさらに改善すべく、PAL における英語力指導システムに PDCA サイクルを導入し、推進することとした。

2013 年度から、英文学科オリジナルのキャリアファイル、「私の 4 年間」を作成、学生に配布し、教員、PAL 指導の卒業生・大学院生などがアドバイザーとして定期的に「私の 4 年間」をもとに学生のこれまでの英語学習活動を振り返り、卒業までに学生自身が何をどこまで成し遂げたのかを、より明確に意識させることを目的に取り組むこととした。

**実施内容**

2008 年度から 1 年生を対象に実施している英語基礎力テスト：Achievement Test (AT)があり、その不合格者に対する学習支援を、2010 年度より PAL プログラムで行った結果、非常に効果的であることが判明した。さらに、基礎力のさらなる強化も求められることから、2011 年度から、2 年生にも対象を広げ、大きな成果をあげるこ

ができた。これに基づき、今年も 1,2 年生を対象に英語能力を上げることを主な目的として AT を実施し、さらに、英文学科オリジナルのキャリアファイル、「私の 4 年間」を新 1 年生全員に配し、学生一人一人が今年度の目標設定考え、ファイルに記載した。

	AT1	AT2
不合格者数	21	28
不合格者の割合 (%)	23%	41%

[未受験者:AT1=0 名、AT2=4 名]

上記は 2013 年度の結果で、不合格の学生を対象に、さらにレベル別小グループに分け、以下のような人数構成で PAL プログラムを行った。

	AT1	AT2
Study Group	学生数	学生数
A	11	14
B	10	18

**結果及び考察**

週 1 回 80 分 3~4 回の勉強会を行い再試験に挑んだ。再試でも合格点に達しなかった学生には、さらに勉強会を行い、再々試験を実施した。結果は以下の通りである。

	AT1		AT2	
	再試	再々試	再試	再々試
	Oct	Dec	Oct	Dec
合格	14 (5)	6 (3)	15 (9)	16 (8)
不合格	6	0	11	0

[未受験者：AT1 Oct=1,Dec=1 AT2 Oct=6, Dec=1]

1、2 年生の再々試験不合格者 11 名には、答案返却時に解説を行い、課題を提出させ、全員条件付きで合格という最終結果となった。

学生には、「私の 4 年間」に AT 結果も記入させ、次年度の目標を設定させる予定である。